



研究キーワード 野生動物, 共存, 種内変異, 社会化の過程, 社会性の進化

谷口 晴香

講師

TANIGUCHI, Haruka

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

- 専門分野 霊長類学, 動物行動学, 生態人類学
現在の研究テーマ
- ・環境がニホンザルの社会関係の発達に与える影響
 - ・環境がニホンザルの育児体系に与える影響
 - ・人間活動を含めた環境が野生動物の社会に与える影響

■著書

- ・『フィールドにみえた<社会性>のゆらぎ：霊長類学と人類学の出会いから』（共編著），2025年，京都大学学術出版会

■論文

- ・『環境としての他者：ニホンザルのアカンボウの伴食相手の変化を事例に』，2025年，『フィールドにみえた<社会性>のゆらぎ：霊長類学と人類学の出会いから』，京都大学学術出版会
- ・『ニホンザルのアカンボウの集まり：地域間比較の試み』，2025年，『社会性の起原と進化 始論：種と性を越えた比較研究のために』，京都大学学術出版会
- ・『ヤクシマザルの離乳期のアカンボウの伴食行動：アカンボウの集まりに着目して』，2022年，『生態人類学会ニュースレター』28号
- ・『Wound healing in wild male baboons: Estimating healing time from wound size』（共著），2018年，『PLoS ONE』vol. 13

■報告書・その他

- ・『フィールドノートをとったとき：探すか、見捨てるか、それが問題だ』，2025年，『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』，京都大学学術出版会
- ・『2022年度フィールドネット・ラウンジ企画 フィールドワークってなんだ？：異分野方法論談話（霊長類学・言語学・歴史学・人類学）』，2023年，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，URL：https://fieldnet-aa.jp/lounge/assets/20230109_Fieldnet_lounge_Report.pdf
- ・『野生ニホンザルの離乳期の子育て』，2020年，『ヒトを見るようにサルを見る』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，URL：https://sociality.aa-ken.jp/data/wp-content/uploads/2020/11/Report_on_colloquium_2020.pdf

- 所属学会 日本霊長類学会，生態人類学会，鳥取県生物学会，屋久島学ソサエティ

- 取得学位 博士（理学）（京都大学）

■略歴

- 2016年3月 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 博士課程修了
- 2017年8月 琉球大学 国際地域創造学部 ポスドク研究員（～2018年（平成30年）7月）
- 2020年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 研究機関研究員
- 2024年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
- 2025年4月 公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科環境学専攻 講師

- 主な担当科目 動物行動学，保全生物学，生物学概論

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

環境が動物の社会構造に影響を及ぼすことや，その社会構造の違いが社会化の過程に影響を及ぼすことが報告されています。私は，それらを総合的に検討し，他個体に対する社会的態度がいかにその集団内において再生産されるか/変容するかを研究しています。